第1回府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会の開催結果

- 1 日 時 平成30年5月17日(木)午前10時～午前11時57分
- 2 場 所 府中市役所北庁舎3階第1会議室
- 3 出席委員 12名(五十音順)
青柳委員、加藤委員、金森委員、佐藤委員、武野委員、林春美委員、
日高委員、松崎委員、峯委員、森村委員、渡邊委員、和田委員
- 4 欠席委員 2名(五十音順)
中山委員、松木委員
- 5 出席職員 吉野副市長
村越福祉保健部長
<高齢者支援課>
山田高齢者支援課長、大木高齢者支援課長補佐兼地域包括ケア推進係長、
奥野地域支援係長、小暮福祉相談係長、石渡介護予防生活支援担当主査、
石谷在宅療養推進担当主査、鈴木施設担当主査、
岸野高齢者支援課事務職員、縄稚高齢者支援課事務職員
<介護保険課>
坪井介護保険課長、阿部介護保険課長補佐兼介護保険制度担当主査、
奥資格保険料係長、横関介護サービス係長、山元介護認定係長
- 6 傍聴者 なし
- 7 内 容 (1) 委嘱状交付
(2) 副市長挨拶
(3) 委員紹介
(4) 正副会長選出
(5) 諮問
(6) 地域密着型サービス指定関係部会の設置
(7) 議題
ア 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会について
(7) 概要
(イ) 会議の公開について
(ロ) 今後の開催予定について
イ 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の概要について
ウ 府中市地域包括支援センターの運営状況について
(8) その他
- 8 配付資料 資料1 府中市附属機関の設置等に関する条例
資料2 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会規則

- 資料3 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会委員名簿
- 資料4 府中市地域包括支援センター長名簿
- 資料5 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会事務局名簿
- 資料6 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会の公開について
- 資料7 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会の開催予定
- 資料8 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第7期）本編／概要版
- 資料9 平成29年度府中市地域包括支援センター活動報告／平成30年度府中市地域包括支援センター活動計画
- 資料10 府中市地域密着型サービス指定関係部会開催報告

9 全文録

事務局 皆様おはようございます。定刻となりましたので、ただ今から第1回高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会を開催いたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しいなか本日の会議にご出席くださり、誠にありがとうございます。

会議の開催に当たりまして、はじめに事務局からのお願いでございますが、議事録の作成をスムーズに行うために、会議の開催中は録音をさせていただきます。また、本日の第1回会議におきましては、広報用の写真も数枚撮影させていただきますので、併せてご了承願います。

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。皆様の机の右側には、上から、委員の皆様のお名前が入った委嘱状、諮問書の写し、及び席次表を配付しております。

また、左側には、会議次第のほか、資料1「府中市附属機関の設置等に関する条例」、資料2「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会規則」、資料3「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会委員名簿」、資料4「府中市地域包括支援センターセンター長名簿」、資料5「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会事務局名簿」、資料6「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会の公開について」、資料7「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会の開催予定」、資料8「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第7期)本編／概要版」、資料9「平成29年度府中市地域包括支援センター活動報告／平成30年度府中市地域包括支援センター活動計画」、資料10「府中市地域密着型サービス指定関係部会開催報告」をお配りしております。資料の不足等はありませんでしょうか。

それでは、次第に沿って進めてまいります。本来であれば、資料2「府中市高齢者保健福

社計画・介護保険事業計画推進等協議会規則」の第4条にございますとおり、この協議会につきましては会長に議事を進行していただきますが、会長が決定されるまでの間、事務局で代わりに進行をさせていただきますので、よろしくお願いいいたします。

なお、本日の会議は、出席委員数が過半数に達していることから、有効に成立することをご報告いたします。

はじめに、次第の「1 委嘱状交付」でございます。委嘱状につきましては、本来であれば、市長から委員の皆様へ直接お渡しするところでございますが、協議時間の関係もございまして、皆様の机の上に置かせていただきました。これをもちまして、委嘱状の交付に代えさせていただきますので、ご了承願います。

続きまして、次第の「2 副市長挨拶」に移らせていただきます。会議の開催に当たりまして、副市長から、皆様にご挨拶を申し上げます。

副市長 本日は、ご多忙のところお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、日頃より本市の行政運営におきまして、多方面にわたりご協力をいただき、心からお礼申し上げます。本来であれば、市長の高野よりご挨拶申し上げますところですが、高野が公務のために市外におりますので私が代読させていただきます。

このたび、皆様方におかれましては、大変ご多忙であるにもかかわらず、快く委員をお引き受けいただき、重ねて感謝申し上げます。

さて、本市では、「第6次府中市総合計画」後期基本計画の基本目標の一つとして、「人と人が支え合い幸せを感じるまち」を掲げているところがございます。高齢者の皆様が住み慣れた地域で、安心していきいきとした生活を送ることができるよう、関係者の皆様のご協力のもと、本年3月、第7期の「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」を策定いたしました。

本計画では、地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて、7つの重点取組を掲げ、昨年4月に開始した総合事業の推進を図るとともに、本年4月から認知症初期集中支援チームを市内全域へ配置するなど、様々な事業に取り組むこととしております。

また、介護保険の基本理念である高齢者の自立支援・重度化防止に向けて継続的に取り組む仕組みが介護保険事業計画に位置づけられていることから、介護保険制度の持続可能性の確保を目指した体制づくりに引き続き努めてまいります。

結びに、本協議会におきまして、皆様方から貴重なご意見を頂戴し、計画の更なる推進を図るとともに、次期計画の策定にお力添えをいただきますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成30年5月17日、府中市長、高野律雄、代読。

事務局 ありがとうございました。続きまして、次第の「3 委員紹介」でございます。

本日配付いたしました席次表及び資料3「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会委員名簿」をご覧ください。恐れ入りますが、資料3の名簿順に、各委員から簡単に自己紹介をお願いいたします。それでは、各委員からお願いいたします。

(各委員が順次、自己紹介)

事務局 ありがとうございます。ただいま委員の皆様からご挨拶をいただきましたが、本日、社会福祉協議会の中山委員がまだいらっしゃっていないため名前だけの紹介とさせていただきます。また、府中市薬剤師会の松木委員につきましても欠席のご連絡をいただいているのでご報告いたします。

それでは次に各地域包括支援センター長の自己紹介をいたします。委員の皆様は資料4をご参照ください。それでは、泉苑センター長からお願いいたします。

(各地域包括支援センター長が順次、自己紹介)

事務局 ありがとうございます。

なお、時間の関係もございますので、事務局は名前の紹介のみとさせていただきます。

(事務局職員紹介)

事務局 続きまして、次第の「4 正副会長選出」でございますが、資料2「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会規則」の第3条では、委員の互選により定めることとなっておりますが、いかがいたしましょうか。

委員 先ほど委員の皆様から自己紹介ありましたが、初対面の方も多いと思いますので、事務局の方で考えがあればご提案いただきたいと思います。

事務局 ありがとうございます。事務局といたしましては、介護保険情勢や政策形成等に造詣の深い和田委員に会長を、また、介護保険制度について専門的知見をお持ちの佐藤委員に副会長をお願いしたいと考えておりますが、委員の皆様いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

事務局 ありがとうございます。それでは、会長に和田委員、副会長に佐藤委員とする

ことといたします。和田委員、佐藤委員には、会長席、副会長席にお移り願います。

(会長、副会長座席移動)

事務局 ここで会長、副会長から、一言ご挨拶をいただきたいと存じます。はじめに、会長、よろしく願いいたします。

会長 先ほどご挨拶させていただきましたけれども、改めて会長をお引き受けしました。諮問書に記載されているとおり第8期の計画の策定に向けて動くということとなりますが、介護保険制度が始まってちょうど20年という節目の年ともなります。府中市の考え方にあります、「安全安心」、「いきいきと生活できる」を基本としながら、利用者の方の自立支援をキーワードにしなが、色々と組み立てていきたいと思っております。皆様のご協力をいただきながら進めてまいりたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

副会長 何分力不足のため、皆様のご協力をお願いいたします。副市長からもあったとおり人と人とが支え合うことによって幸せを得るということがありましたが、このことを大事にして本協議会を進めたいと思っております。府中市民の皆さんが年を取っても、認知症になっても大丈夫だという、心豊かに幸せに暮らすことができるような府中市となるよう、少しでもお役に立てたらと思っております。よろしく願います。

事務局 会長、副会長、ありがとうございました。

続きまして、次第の「5 諮問」でございます。副市長から会長に諮問書の伝達をさせていただきます。

(副市長から諮問書の朗読・伝達)

事務局 副市長はこのあと他の公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。それでは、ここから先の進行につきましては、会長をお願いしたいと存じます。

会長 それではこれから先は、私が議事を進行いたします。次第の6「地域密着型サービス指定関係部会の設置」について、事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、地域密着型サービス指定部会の設置について、説明させていただきます。

まず、地域密着型サービスとは、高齢者が要介護状態になっても、可能な限り住み慣れた地域での生活を継続できることを目的に創設されたサービスでございます。本市が事業者の指定を行い、原則として、本市の市民のみが保険給付の対象となります。

本市が事業者を指定する際には、介護保険法に基づき介護保険の被保険者その他の関係者の意見を伺う必要があります。

そこで、本市では当該事項につきましては、申請に基づく指定となることから、協議を行う時期が不定期であり、また、継続した協議を必要としないことから、本協議会の下部組織として、「地域密着型サービス関係部会」を設置し、委員5名で運営してまいりました。

したがって、今後につきましても、引き続き同様の運営を行なってまいりたいと考えております。

つきましては、地域密着型サービス関係部会の設置に関しまして、本協議会でのご了承をいただきたいと存じます。よろしくお願ひいたします。

会長

ありがとうございます。皆さん、部会の設置ということですがいかがでしょうか。

(委員からの異議の声なし)

会長 それでは、設置が承認されましたので、引き続き部会委員の選任につきまして事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、地域密着型サービス関係部会委員等の選出につきまして、説明させていただきます。

部会委員及び部会長に関しましては、本協議会規則の第5条で「会長が指名する」と規定されていますが、委員の人数につきましては、特段の規定はありませんので、前回と同様に5名でお願いしたいと考えております。

つきましては、会長から部会委員5名及び部会長をご指名していただきたいと存じます。よろしくお願ひいたします。

会長 では、規則で委員の選任につきましては本協議会の会長が指名することとなっているので、指名をさせていただきます。

事業者代表として森村委員、社会福祉関係者から松崎委員、医療関係者から峯委員、公募市民の方から林委員、部会長は、和田が務めさせていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

事務局 ありがとうございます。詳細は改めてご案内させていただきますので、部会の委員に選出された皆様におかれましては、よろしくお願ひいたします。

会長 次に、次第の「7(1) 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会について」のうち、「ア 概要」について、事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会の概要につきましてご説明させていただきます。

資料1及び資料2をご覧ください。

本協議会は、資料1の「府中市附属機関の設置等に関する条例」で規定されており、資料2の「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会規則」で組織及び運営に関し必要な事項を定めているものです。

資料1の3ページ下段をご覧ください。

本協議会の所掌事項は「(1) 府中市高齢者保健福祉計画の推進に関する事項」、「(2) 府中市介護保険事業計画の推進に関する事項」、「(3) 地域包括支援センターの運営状況の評価等に関する事項」、「(4) 指定地域密着型サービス事業者及び指定地域密着型介護予防サービス事業者の指定等に関する事項」、「(5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項」となっております。

(1)の府中市高齢者保健福祉計画につきましては、高齢者の健康と福祉の増進を図るため、(2)の府中市介護保険事業計画につきましては、介護保険事業に係る介護保険給付の円滑な実施を図るために策定するものですが、詳細は後の議題(2)においてご説明いたします。

また、(3)の地域包括支援センターの運営状況についても、後の議題(3)においてご説明及びご報告をいたします。

最後に、(4)につきましては先ほどの次第6でご説明したとおりとなります。

以上で説明を終わります。

会長 ありがとうございます。第6期計画からの継続性に配慮しつつ、府中市の高齢者の声に耳を傾けながらも、一方で改正介護保険法へも対応していくことが大切であり、また課題であることが分かりました。

それでは次に、議題の「(1)イ 会議の公開」について事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは説明いたします。恐れ入りますが、資料6の「府中市高齢者保健福祉計

画・介護保険事業計画推進等協議会の公開について」をご覧ください。

はじめに、「1 会議の公開」でございますが、本市では府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会を含む附属機関等の会議につきましては、府中市情報公開条例により原則公開するものと定めております。本会議につきましても、資料に記載の例外規定には該当しないことから、この原則を遵守することとしたいと考えております。

続きまして、「2 傍聴希望への対応」でございますが、記載のとおり5点ございまして、1点目は「会議の開催に当たりましては、広報紙及び市ホームページで会議日程及び傍聴について掲載する」、2点目は「傍聴人数は10人以内を定員とし、前日までの申込みを原則とする」、3点目は「傍聴者は傍聴者名簿に必要事項を記入し、裏面の傍聴についての諸注意を確認した上で、指定された場所で傍聴していただく」、4点目は「当日の会議資料は傍聴者にも配付し会議終了後回収するものとする」、5点目は「会議当日の傍聴者の入室については、その都度協議会の判断を仰ぐ」運用にしたいと考えております。なお、本日の会議につきましては、この公開の取扱いが決定していなかったため、開催の告知はいたしませんでしたが、次回からは事前に傍聴の募集も含めて告知したいと存じます。

最後に、「3 会議録の公開」でございますが、「会議ごとに要点記録による会議録を作成し、委員の皆様が内容を確認した後に、市役所3階市政情報公開室、中央図書館、白糸台図書館、西府図書館及び市ホームページで一般の閲覧に供する」形で公開したいと考えております。なお、委員の皆様には、次の会議の開催前を目途に会議録（案）を送付してご確認いただき、修正の有無を確認したうえで、確定したいと存じます。なお、この会議録の内容につきまして、決定していただきたい点が1つございます。会議録の中で発言者のお名前を明記するか否かにつきましては、各附属機関に運用が委ねられております。議論の過程を明確にするという観点から委員名を明記するという考えもございますし、活発な議論が抑制されないように“委員”という表記に統一する手法もございますので、ご審議願います。なお、他の附属機関におきましては、委員名を明記しない会議録の方が多くなっております。

説明は以上でございます。よろしくご審議くださいますようお願いいたします。

会長 ありがとうございます。事務局から説明のあった「会議の公開」について、ご意見やご質問はございますか。

特に、会議録に発言者の氏名を記すか否かについては、この会議で決めてほしいとの説明でしたが、その点については、どのように扱いますでしょうか。昨年までは、「会長」のみが標記され、その他委員名は伏せられていたかと思えます。

委員 無記名が多いのであれば従来どおりでいいのではないのでしょうか。

会長 ありがとうございます。他にございますか。それでは無いようですので、「会議の公開」については従来のとおり、会議録への発言者名については、記載しないことといたします。

続いて、議題の「(1)ウ 今後の開催予定」について、事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは説明いたします。恐れ入りますが、資料7の「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会の開催予定」をご覧ください。

はじめに、協議会の開催回数でございますが、平成30年度は全5回の開催を予定しており、開催日程につきましては、概ね2か月に1回程度の開催とさせていただきたいと考えております。なお、第2回の会議については、7月19日(木)午前10時と設定させていただいております。第3回目以降の具体的な開催日程や開催時間の調整につきましては、後ほど議題の「8 その他」の中で改めて取り上げさせていただきます。

続きまして、主な審議内容につきまして、説明いたします。本日の第1回会議におきましては、「会議の運営方法」など基本的な協議会の運営事項を決めていくほか、後ほど議題でも取り上げます、「第7期府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の概要等を説明させていただき、審議に先立っての共通認識を持つことを本日のテーマとしております。

第2回以降については、今後、テーマの追加・変更等がある場合もございますが、資料では概ねの予定をお示ししております。第2回では、第6期計画の評価・検証と第7期計画の進行管理が中心となります。3回目以降、地域ケア会議、生活支援体制整備事業の協議体として地域課題の把握や、地域包括支援センターの運営状況の確認をしたいと考えております。

平成31年度は、平成30年度に実施してきました第7期計画進行管理等については継続しつつ、第8期計画策定に向けた各種アンケートを実施していき、平成32年度には、各種アンケート結果を踏まえながら重点施策を中心に計画の素案づくりを進める予定です。以上でございます。

会長 事務局から説明のあった「今後の開催予定」について、ご意見やご質問はございますか。

(委員からの意見なし)

会長 それでは、無いようですので、「今後の開催予定」については事務局案のとおりといたしますが、今後の議論によっては、予定の変更もあろうかと思っておりますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

続いて、議題の「(2)府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の概要」について、

事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、お手元の資料に基づき、「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第7期）」の概要につきまして、ご説明させていただきます。今回は初めて出席された委員の方もいらっしゃいますので、説明の場を設けさせていただいております。

資料8「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第7期）」、厚い方の冊子をご覧ください。

この計画は、いわゆる団塊の世代が75歳を迎える平成37年、2025年を見据え、高齢者の健康と福祉の増進を図るための、老人福祉法に基づく「高齢者保健福祉計画」と、介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施を図るための、介護保険法に基づく「介護保険事業計画」から構成されており、平成30年から32年度の3か年を計画期間とする計画となっております。

計画の構成としましては、目次に記載のとおりとなります。

第1章では「計画の策定にあたって」として、計画策定の趣旨、計画の位置づけや計画期間、策定体制を、第2章では、本市の高齢者保健福祉・介護保険事業の現状を、第3章では、これまでの取組と課題として、第6期計画の取組状況や、国の動向、本市の高齢者福祉の課題を、第4章では、計画の基本的な考え方として、計画の目指すもの（理念）、計画の基本目標及び体系で構成します。

第5章では重点的取組、第6章では計画の目標に向けた取組、こちらは各目標の事業の説明になります。

第7章では介護保険事業計画、第8章では、計画の推進に向けてとして、計画の評価、点検、推進における組織等についてを、最後に資料編という構成になります。

5ページに移りまして、5ページから27ページまでは、「第2章 本市の高齢者保健福祉・介護保険事業の現状」として、高齢者の現状、介護保険の現状及びアンケート調査から見た現状を示しております。

6ページに移りまして、府中市の高齢者人口の5か年の推移を示しており、平成29年に54,835人となっておりますが、これは平成25年と比べ、前期高齢者で10.2%、後期高齢者で15.3%の増加となり、確実に増加していることを示しています。

9ページに移りまして、こちらには要介護認定者数の推移が掲載されており、高齢者人口の増加に伴い、要支援を含む認定者数も徐々に伸び続けており、特に要介護1の伸びが27.3%増と、大きいことがわかります。その他、記載のとおりアンケート結果となっております。

29ページに移りまして、「第3章 これまでの取組と課題」として、29、30ページにおいて、第6期計画で掲げた4つ目標に対する、これまでの取組について整理しております。

31ページに移りまして、「2 国の動向」は、平成30年4月に施行された改正介護保険法等の要点を示しております。

33ページに移りまして、33ページから40ページにおいて、「3の本市の高齢者福祉に関する課題」として、「これまでの取組」と「国の動向」を踏まえ、「高齢者がいきいきと暮らせる地域づくりの推進」「介護予防の充実」など、9つの課題を示しております。

41ページに移りまして、「第4章 計画の基本的な考え方」においては、計画の目指すもの（理念）につきましては、「住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまちづくり」となり、42ページに移りまして、「2 計画の基本目標」につきましては、「1 高齢者の生きがいつくり・就労支援の推進」、「2 健康づくり・介護予防の推進」、「3 地域での生活を支える仕組みづくりの推進」、「4 介護保険制度の円滑な運営」の4目標になります。

43ページに移りまして、「3 計画の基本目標に向けた施策の体系」ですが、4つの目標の下に、16の方針、44の施策という施策体系になっております。

44ページに移りまして、日常生活圏域についてですが、本計画の上位計画にあたる福祉計画で設定された福祉エリアを、身近な地域で、地域の特性に応じた多様なサービスを提供するとしている日常生活圏域とし、記載の6圏域としております。

45ページに移りまして、次に、各重点的取組について説明します。計画の理念を実現するため、地域包括ケアを深化・推進させるため、7つの重点的取組を設定しています。

46ページに移りまして、「1 住民主体による地域づくりの推進」では、住民主体の地域づくりが、行政による支援では対応できない市民ニーズに対応するとともに、サービス・支援を選択できることが、要介護状態の予防や、自立した日常生活の営みにつながることで、地域における社会参加が自身の介護予防などにつながり、地域の支え合いに必要があることとし、「地域の支え合いの推進」、「高齢者が担い手となる生活支援サービスの仕組みづくり」を施策に設定しています。

48ページに移りまして、「2 総合事業の推進」においては、サービスを提供するためには、介護予防と自立支援の視点を踏まえた適切な介護予防ケアマネジメントが必要であり、今後は、これらの取組を推進するとともに、取組を評価し、新たなサービスの実施を検討していく必要があることとし、「総合事業を構成する各事業の推進」、「介護予防ケアマネジメントの充実」、「一般介護予防事業等の実施」を施策に設定しています。

次に、52ページに移りまして、「3 認知症対策の充実」においては、国の新オレンジプランを参考に認知症施策全体を充実させることとし、「認知症についての理解促進」、「認知症の方への対応の更なる充実」、「地域で認知症の方と家族支援の強化」を施策に設定しています。

54ページに移りまして、「4 医療と介護の連携強化」においては、在宅療養相談窓口を

地域包括支援センターに設置し、在宅療養に関する相談対応を開始したことを踏まえ、「 共通の目標を持ちお互いの機能を活かした協働関係の構築 」、「 在宅療養支援の仕組みづくり」を施策に設定しています。

55ページに移りまして、「5 介護者への支援の充実」においては、要介護状態になっても住み慣れた自宅で安心して暮らすには、介護者の負担軽減や孤立化防止を図り、介護者への支援を充実させる必要があることし、「 相談支援体制の充実 」、「 介護者の交流機会の充実 」、「 介護者への情報提供とサービスの推進」を施策に設定しています。

56ページに移りまして、次に、「6 地域支援体制の推進」においては、地域包括ケアシステムの取組を展開するために、「 地域包括支援センターの機能強化 」、「 地域ケア会議の充実 」、「 生活支援体制整備の推進」を施策に設定しています。

次に、ページを移りまして、57ページ「7 多様な住まい方への支援の推進」においては地域包括ケアシステム構築のためには、生活の基盤として住まいが整備され、また、本人に合った住まい方の確保が必要されることから、「 住まいの確保の支援 」、「 住まいのあり方の検討 」、「 住環境改善の支援」を施策に設定しています。

次に59ページをお開きください。「第6章 計画の目標に向けた取組」ですが、こちらからは、先に43ページで示した施策の体系における、計画の目標に向けた取組になります。まず、「目標1 高齢者の生きがいづくり・就労支援の推進」では、高齢者が元気で、活動的な生活が続けられるよう、地域での活動の場を確保し、また地域活動や就業など多様な場への社会参加を促進するため、高齢者自身が地域づくりの担い手として活躍できるよう、「高齢者の社会参加の促進 」、「住民主体による地域づくりの支援」など4方針、「地域活動の情報提供 」、「住民主体の地域支え合い事業の推進」など6施策、「地域貢献活動・地域参加の促進」や「地域支え合いのための情報提供・人材育成及び居場所づくりの支援」など8事業を記載のとおり設定しております。

62ページに移りまして、次の「目標2 健康づくり・介護予防の推進」については、高齢者が元気で活動的な生活が続けられるよう、また、要介護状態になっても重度化を防ぐことができるよう、「健康づくりの推進 」、「介護予防の充実」など3方針、及び「健康増進活動への支援」など7施策、「スポーツ健康増進活動 」、「介護予防事業のPR」など18事業を、記載のとおり設定しています。

66ページに移りまして、次の「目標3 地域での生活を支える仕組みづくりの推進」においては、地域の支え合いの輪を広げ、市民との協働により主体的に地域を支える仕組みづくりを推進し、住み慣れた地域で最後まで暮らせる地域づくりを進めるため、「生活支援・見守り支援 」、「認知症対策の充実」など7方針、「高齢者見守りネットワークの推進 」、「多職種連携による認知症対策」など23施策、また「制度としての見守り 」、「認知症の早期診断・早期対応の推進」など49事業を記載のとおり設定しております。

77ページに移りまして、次の「目標4 介護保険制度の円滑な運営」ですが、高齢者人口の増加及び要介護認定者数の増加に伴い、給付費の上昇傾向が続く中、今後も介護保険制度の円滑な運営を推進するため、「介護保険事業の推進」、「情報の提供体制の充実」の2方針、「介護サービス相談体制の充実」、「情報収集と提供体制の整備」など8施策、「介護保険サービス利用料の低減」、「多様な媒体を使った分かりやすい情報の提供」など15事業を記載のとおり設定しております。

ここで説明者を交代します。

(説明者交代)

それでは、続きまして、第7章介護保険事業計画(第7期)から、説明させていただきます。

81ページをご覧ください。はじめに、1の介護保険制度に関する国の動きと市の考え方でございますが、まず、介護保険制度の現状として、2025年(平成37年)には、いわゆる団塊世代全てが75歳以上となるなど、人口の高齢化は今後さらに進展することが見込まれており、都市部では75歳以上人口は、急速に増加するなど、一部の地域においてはより急激な高齢化も現れていることを示しています。

また、国の動きとして、国は「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」を定め、地域包括ケアシステムの深化・推進及び、介護保険制度の持続可能性の確保を掲げ、計画的な介護保険の運営体制の確保・地域支援事業の実施を目指すことを示しています。

さらに、府中市では、こうした国の動きを受け、保険者機能の強化や、制度改正の内容に適切に対応しながら、サービスを必要とする方に必要なサービスが提供される体制づくりを、今後も進めていくことを示しています。

82ページに移りまして、続きまして、2の新たな介護保険制度等(制度改正)の概要でございますが、「(1)地域包括ケアシステムの深化・推進」と「(2)介護保険制度の持続可能性の確保」それぞれについて、85ページにかけて、新たな仕組みや取り組むべき課題が掲げられております。

86ページに移りまして、続きまして、3の自立支援・重度化防止に向けた取組でございますが、今回の制度改正では、介護保険の基本理念である高齢者の自立支援・重度化防止に向けて継続的に取り組む仕組みを、市町村介護保険事業計画に位置づけられること、また、本市では、次の4つの施策を自立支援・重度化防止に資する施策(自立支援等施策)として定めて取り組むとともに、目標値(指標)を設定し、毎年その達成状況についての評価・公表を行うことを示しておりまして、88ページにかけて、4つの項目についてそれぞれ実現

するための事業と評価指標を記載しております。

89ページに移りまして、続きまして、4の介護給付・予防給付等の見込みでございますが、本計画において、保険料基準額を設定するため、介護給付・予防給付のサービス量や地域支援事業の事業規模を見込むことを、図を用いて示しています。

90ページに移りまして、「(1)被保険者数及び要介護(要支援)認定者数の推計」でございますが、第1号被保険者数は、平成32年度には56,929人に、要介護(要支援)認定者数は11,781人になると見込まれ、平成37年度には13,326人と高齢者のおよそ4人に1人が介護を必要とする見込みです。

91ページに移りまして、次に、「(2)介護保険サービスの見込量」でございますが、平成32年度までのサービス種別ごとの利用量と給付費を推計し、その結果を93ページにかけて示しております。

93ページに移りまして、次に、「(3)施設等の整備見込み」でございますが、特別養護老人ホームをはじめとする、各種施設整備の必要性を記載した上で、94ページの表では第7期計画期間における施設等整備の見込みを示しております。

95ページに移りまして、次に、「(4)3年間の標準給付見込額」でございますが、下の表のとおり各年度における見込額を示しております。平成32年度までの3年間の合計金額は約486億円と見込んでおります。

次に、「(5)地域支援事業費見込額」でございますが、下の表のとおり各年度における見込額を示しております。平成32年度までの3年間の合計金額は約27億円と見込んでおります。

96ページに移りまして、次に、「(6)市町村特別給付費」でございますが、第1号被保険者の負担が増加することや高齢化の進展に伴い、給付費が増えることが見込まれることから、本計画において市町村特別給付費は見込まないことを示しております。

97ページに移りまして、続きまして、5のサービス見込量と質を確保するための方策でございますが、国の指針に基づき、第7期計画期間中に必要な介護サービスの見込量と質を確保するための方策として、99ページにかけて生活支援体制の充実など7つの方策を示しております。

100ページに移りまして、続きまして、6の第1号被保険者の介護保険料の設定についてでございますが、はじめに、「(1)費用負担の構成」では、介護保険事業は、介護保険特別会計で運営され、財源は保険料50%と、公費50%で賄われていること、保険料の負担割合は、第1号被保険者(65歳以上)と第2号被保険者(40歳以上65歳未満)の全国の人口割合により、決定されることを示しています。

101ページに移りまして、次に、「(2)保険料設定の前提となる諸条件」では、介護保険料は、介護保険総費用に対して、65歳以上の第1号被保険者が負担する部分を、市町村

民税の課税状況や前年の収入・所得に応じて、負担するものであることを示しています。

なお、今回の介護保険制度改正により、2割負担者のうち特に所得の高い層を3割負担とする利用者負担割合の見直し、介護納付金への総報酬割の導入が行われます。

また、介護報酬の改定等、国の動向を注視し、きめ細かい保険料段階を設定することを示しています。

次に、「(3)本市の保険料設定の考え方」では、「サービス見込量と保険料のバランス」、「将来的なサービス水準を考慮した保険料設定」、「調整交付金に対する負担」、「府中市介護給付費等準備基金の活用について」、大きくこの4点について、保険料を設定する上で重要なポイントであると考えています。

102ページに移りまして、次に、「(4)第1号被保険者の介護保険料」でございますが、「(3)の介護保険料設定の考え方」に基づき、第1号被保険者介護保険料基準月額を算出すると、基準月額保険料は6,034円となりますが、介護給付費等準備基金を活用することで、5,715円としました。各所得段階における対象者と保険料月額などにつきましては、103ページの表をご覧ください。

104ページに移りまして、第7期介護給付費と保険料の全体像につきまして、掲載しております。

105ページに移りまして、最後に、第8章 計画の推進に向けてでございますが、評価、点検、推進における組織、協働・ネットワーク、庁内体制の整備につきまして、必要な対応に関して掲載しております。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

会長 ありがとうございます。事務局から説明のあった「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の概要」について、ご意見やご質問はございますか。

(質問なし)

会長 それでは無いようですので、「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の概要」については、次回以降の議論の土台として、参考にしながら論議を進めていきたいと思えます。

続いて、議題の「(3)府中市地域包括支援センターの運営状況」について、事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは説明いたします。恐れ入りますが、資料9の「平成29年度府中市地域包括支援センター活動報告、平成30年度府中市地域包括支援センター活動計画」をご覧ください。

ださい。

表紙をめくっていただきますと、泉苑から順番に各地域包括支援センターの平成29年度の活動報告と平成30年度の活動計画になっております。

その後、補足1としまして「平成29年度府中市地域包括支援センター活動実績」ですが、こちらは各地域包括支援センターの活動状況・相談件数や会議等の開催状況などを数値として集計したものがございます。

また、もう1部、補足2としまして「平成29年度府中市福祉保健部高齢者支援課報告」ですが、こちらは高齢者支援課の地域包括支援センター等の地域支援統括に関わる活動状況や数値的なものをまとめた資料になります。

各地域包括支援センターでは相談や支援をはじめ、地域活動などにも取り組んでおりますが、それぞれに抱える課題もありますので、各センター長に平成29年度の報告と平成30年度の計画について、順にお話しいただきます。

それでは、泉苑のセンター長から順番にお願いいたします。

泉苑 泉苑です。いくつかの事業の中からピックアップしてお話しさせていただきます。まず、総合相談支援です。相談件数といたしましては、昨年度と比較して大きく増減したわけではございません。内容としましては、身寄りのない一人暮らしの方からの相談ケースであったり、また御家族に課題を抱えていらっしゃる問題ケースが継続的にございました。その都度、関わっている機関で対応や方向性について検討いたしましたが、それぞれの専門性や制度の狭間を埋めることの難しさを感じました。過去の運営協議会の場において何度も申し上げておりますが、今後このようなケースが全市的に増えていくと思われまので、関係機関の横のつながりを持って協働体制が組めるように、私たちも「待ち」の姿勢ではなくて、こちらからももっと一緒に動いていきたいと思いますという姿勢で積極的に働きかけていきたいと考えております。

続きましてケアマネジャーへの支援についてです。ケアマネジャー向けのサロンの開催が定着してきておりまして、包括支援センターとケアマネジャーの関係性をもちろんですが、ケアマネジャー同士の関係性が構築されてきていると感じております。今年度は、ケアマネジャーと地域の社会資源を結びつけるような内容のサロンを考えております。

続きまして介護予防ケアマネジメントです。昨年、介護予防・日常生活支援総合事業が始まりまして、対応に追われた1年間だったなと思っております。私たち職員が十分に理解していないといけないため、内部で何度も勉強会を実施したほか、地域向けの説明会も開催いたしました。地域特性も影響しているためか、総合事業のサービス提供事業所が非常に少なく連携を取ることに苦慮しております。引き続き、総合事業の提供の実態を把握し、必要に応じて、地域課題として提言していきたいと考えております。

続きまして、昨年度、認知症初期集中を実施いたしました。事業を通じて、認知症疾患医療センターとなっている根岸病院との連携は深まったように感じております。今年度の本改正等で医療連携が強く謳われておりますので、今年度は更に医療機関との顔が見える関係性を高められるように、積極的に出向いていきたいと考えております。

最後に、事業全体を通してですが、私たちは365日、職員が交代で勤務しております。自分が不在のときでも他の職員が対応できるよう、職員全員で業務の全体を把握するなど、職員間の連携や情報共有に密にしていきたいと考えております。これまでも意識してきたことではありますが、更にシステム化をして業務に臨みたいと考えております。以上でございます。

よつや苑 よつや苑から報告させていただきます。よつや苑の方は担当地区としましては、四谷、住吉町、分梅町、美好町3丁目となっております。比較的広範囲を担当させていただいております。また、高齢者人口につきましては7,200人ほどで推移しているところでございます。平成29年度に実施した活動の中から特徴的な取組をご報告します。

ケアマネカフェを月に1回実施しまして、地域のケアマネジャーさんをお呼びして事例検討を行いました。昨年7月に初めて生活援護課との情報交換会を実施しましたが、この際に隣接地域包括支援センターと協力し合いながら合同開催しました。

また、認知症サポーター養成講座については小学校の児童に対しても開催しているのですが、これまでは1校のみの開催でしたが昨年度は3校で開催することができ、こちらについても、隣接地域包括支援センターと協力し合いながらの開催となりました。

西部地区多職種研修会については昨年の11月に開催しましたが、こちらもまた隣接地域包括支援センターとの合同開催となりまして、初めてワールドカフェ方式を採用した結果、医療と介護の連携のきっかけとなったものと考えております。

平成30年度についても連日のように新規相談やケース対応に追われておりますが、よつや苑としましては日々の業務に追われるだけでなく、職員全員で業務内容を共有して複雑化したケースや課題に対応するとともに、より一層関係機関や多職種機関との連携を深められるよう努めたいと思います。

地域の皆さんからは、「地域包括支援センター」という名称は知らなくても、何かあったら「よつや苑」に相談しようという声を頂いておりますので、今後とも地域の拠点としての役割を担っていききたいと考えております。以上です。

あさひ苑 あさひ苑です。今までの2苑の説明の中で、地域包括支援センターの共通の業務や課題について挙がってまいりましたので、あさひ苑の特長的な内容についてご報告します。補足2の資料の「1 総合相談支援業務」にありますとおり、市内全域の虐待対応の相談件

数が倍増となっていますが、これは虐待されている高齢者が増えたわけではないと認識しており、様々な機関や地域関係者と私たちとがつながることができた結果として色々な所から報告があったものと考えております。明らかに虐待されているケースもあれば、何か家庭環境に問題があるのかもしれないというケースまで様々な報告を頂きました。

もう一つの特長的なことといえますと、在宅療養の相談窓口業務の中で、エリア内の病院、歯科医院、薬局などの全ての医療機関を回り回ることができました。そこで色々な話を聞くことができたため、多職種連携の研修会につなげることができました。

平成30年度の活動計画の中で特徴的なものを申し上げますと、「家族介護者支援事業」内に記載のとおり、介護している家族を決して一人にしないという強い意志をもって在宅で介護されている方を支援していきたいと考えております。核家族化が進行しているため、一人暮らしでキーパーソンがいない高齢者だけの世帯が多くなっています。地域を家族と見立てて、一つの地域が家族として機能していけるような取組を進めていきたいと考えております。以上です。

安立園 安立園です。よろしくお願いいいたします。平成29年度で大きな出来事はやはり総合事業が開始されたことだと思います。開始に先立っては多くの方に準備していただき、また安立園としても準備をしてところですが、不慣れなことも多々ありました。特に介護予防ケアマネジメントになったことで委託できるケアプラン数が減少し、地域包括支援センターが直接担当するケアプラン数が増加したことにより、多くの時間を割くこととなりました。添付資料からも分かるとおり安立園が一番多くケアプランを作成しており、その背景までは突き詰められてはいないのですが、10年前の地域包括支援センターの業務量と比べて、非常に多くなっていると感じております。

総合相談支援も苦慮しておりまして、ご親族がいない、遠方にいらっしゃるというだけでなく、実際にはご本人に精神疾患があることやご家族の方への支援も地域包括支援センターが担わなければ高齢者の方の生活を支えられない現状です。このため、地域包括支援センターがご家族の方に成り代わりまして、治療に付き添うですとか緊急連絡先に地域包括支援センターが充てられるという例も増えてきておりますし、今後ますます増えていくことと思っておりますので、日々の業務を効率的に進めることに努めたいと考えております。

総合事業が始まりまして、予防の方のサービスは受けないという事業者も出てきていることから、利用者とサービス事業者とを結びつけることが難しくなってきたと感じております。認定者数も増えていくことですし、今後も高齢者の方に安心して生活していただけるよう、介護予防・日常生活支援総合事業における地域包括支援センターの役割について考えていきたいと思っております。簡単ではありますが以上でございます。

しみずがおか 地域包括支援センターしみずがおかです。対象としている地域は、八幡町、清水が丘、白糸台4丁目から6丁目と押立町になります。

平成29年度のポイントとしましては、在宅医療の関係で地域の全ての医療機関へ訪問することができ、今後ますます情報交換を進めていく予定です。これにより、高齢者が退院する前段階に病院からご相談のお電話を頂いているところです。

今年度につきましては、地域包括支援センターのPRを行いつつ、よりスムーズに相談ができるような関係づくりに努めていきたいと考えております。また、権利擁護につきましては、職員がアンテナを鋭くすることにより虐待やその他被害の防止につながるものと考えておりますので、様々な研修や講習会に出席したいと考えております。また、介護予防についても、職員だけではなく、地域の方の協力を頂きながら、地域の中でキーとなる方を育てていくために研修会などを開催したいと考えておりますので、地域の方、関係者の方と話し合いながら、進めていきたいと考えております。以上です。

かたまち 地域包括支援センターかたまちです。平成29年度の報告ですが、総合事業への移行がやはり一番時間をかけたと感じております。担当する職員も初めてのことだったため、色々確認作業をしながら、戸惑いながらの実施でしたが、無事移行できたと考えております。ただし、かたまちエリアは高齢者人口に対して要支援の割合が高いため、ケアプランの作成数も多くなり、職員が対応に時間を要する傾向があります。

また、ささえ隊ネットのステップアップ講座も地域包括支援センターみなみ町と合同で開催しましたが、当初想定していたよりも多くの方に参加していただきまして、地域の方が認知症に非常に関心が高く、また何か役に立ちたい、何か活動したいという気持ちの方がまだまだ地域には沢山いらっしゃるということを知ることができました。

総合相談の方としましては、高齢者だけではなく65歳未満の方からの相談、また住民票が府中には無いけれどもご家族の方を頼って他市、他県から越してこられた方からの相談、高齢者と暮らしているお子さんからの相談、そして経済的に困窮しているという相談が多かったように記憶しております。

平成30年度の計画ですが、地域包括支援センターかたまちの課題としまして、在宅療養の相談窓口として職員の医療に対する知識がまだまだ足りていないと感じておりますので、実際の業務や事例集などを活用しながら職員のレベルアップに努めていきたいと考えております。もう一点は、府中駅の近くに新しい集合住宅が再開発でできましたけれども、これまでも感じていることなのですが、集合住宅はなかなか地域とのつながりが難しく、また地域包括支援センターへの相談につながるまで時間が掛かってしまう傾向があります。元気な方が多いこともあるかもしれないが、こうした集合住宅に対しても時間を掛けながらアプローチしていきたいと考えております。以上です。

しんまち 地域包括支援センターしんまちです。総合相談ですが他の地域包括支援センター同様、非常に困難なケースが増えてきています。基本に忠実に多機関と連携、協力しながら今後も対応していきたいと考えております。平成29年度は、重点的に取り組んだことが2点ありまして、1点目は在宅療養の啓発に関してですが、各職員で色々な切り口で取り組んでいるところです。例えば、主任ケアマネジャーはケアマネジャーへの学習会を実施し、家族介護者教室では在宅療養をどうしていくかについて現実的なテーマを用いながら話し合いをしているところです。高齢者地域支援連絡会では地域の診療医の先生を迎えて講談をしていただくなど、まだまだ在宅療養について地域にイメージが根づいていない状態を改善していく取組をしてまいりました。

2点目は地域づくりについてですが、介護予防コーディネーターと地域支援ネットワーク担当とで協力し合いながら実施してきました。地域住民の自主グループや介護事業所、商店街など色々な組織と連携して、高齢者だけではなく多世代とのつながりの創出に向けて取り組んでいます。時間が掛かる内容のため、今年度も継続して実施していきたいと考えております。

平成30年度も、在宅療養についても地域づくりについても引き続きの課題となっております。地域づくりのところでは、昨年度末からわがまち支えあい協議会における地域福祉コーディネーターと連携・協力をして、地域包括支援センターしんまちで把握している地域資源をもっと具体的な活動につなげていけるように取り組んでいきたいと思っております。在宅療養については、今年度も様々な切り口で取り組んでいこうと思っておりますが、健康づくり、社会参加、認知症高齢者への対応などを意識しながら取り組んでまいります。

地域包括ケアシステムの構築という地域住民にとっては言葉が難しくて分かりにくいいため、どういう地域づくりを進めたら住みやすい地域になるのかという視点で噛み砕いて分かりやすく地域住民と共有していきたいと考えております。地域包括支援センター職員も様々な職種や業務内容が絡んでおりますが、どれも単体では取り組めないものなので、連動させて取り組んでいくことが大切だと考えておりますので、地域づくりを地域包括支援センターだけで進めるのではなく、地域の方々とともに進めていきたいと考えております。よろしくお願いたします。

緑苑 緑苑です。報告をさせていただきます。緑苑は緑町、浅間町、若松町2丁目から5丁目の地区を担当させていただいております。11地域包括支援センターの中で高齢化率が一番低い地域となりますが、反対にこれから高齢者になる方を多く抱えているとも言えます。

平成29年度で目立った点ですが、総合相談においては圧倒的に生活の困窮に関する相談

が増えました。突き詰めると金銭的に生活が困窮しているという方が非常に多くなっており
ます。生活保護を受けるほどの困窮ではないものの、食費や医療費を切り詰めて暮らしてい
るため、結果的に具合が悪くなるという個別ケースが増えました。このような課題について
は、ケアマネジャー、福祉相談係、生活援護課などの各専門部署と連携して少しずつ進めて
おりますが、なかなか答えがみつからない、解決に至らない状況で、非常に難しい問題であ
るなと感じております。

一方で権利擁護では多数の機関で認知症サポーター養成講座を開催することができまし
た。新聞社や郵便局など普段地域へ入り込んでいる方にも認知症について共有できまして、
他の地域包括支援センターとの共同開催分と併せまして926人の方々に認知症サポーター
になっていただきました。この中には小中学生も加わっておるのですが、認知症の方も暮ら
しやすい地域づくりをする上では、小中学生への啓発も不可欠であると考えております。ま
た、新聞社の方からは講座を開催してから2日後に、地域で倒れている方がいるという連絡
が緑苑まで入り、すぐに助けることができました。こうして認知症に関して知っていただく
ことで、着実に良い方向に向かっていくのではないかと考えております。

若い地域のため、退職して間もない方も多くいらっしゃるのですが、その方々がまだまだ
何かやりたいという気持ちを持っていらっしゃるのですが、家族介護者教室などを通じて見え
てまいりました。一方で地域の自主グループの方々は高齢化が進んでおり、新しい仲間に入
って来てもらいたいという思いがある中でお互いにつながらない状況です。自主グループの
リーダーが具合が悪くなってしまったらグループ活動自体が停滞してしまう、これは自治会
も高齢化が進んできているため似たような状況かと思いますが、いかに地域で活動されてい
る方々と活動したいと思っている方とをつなげられるかが課題であると考えております。地
域住民の何かあったら「緑苑」という意識が芽生えてきておりますので、地域づくりとい
うことでお互いにつながることのお手伝いができたらと思えますし、まだまだ若い地域です
のでお互いに支えるという意識を普及しやすいものと捉え、活動していきたいと考えておりま
す。以上です。

にしふ 地域包括支援センターにしふです。にしふは府中市の西の地区にあたり、西府
町、本宿町、日新町を担当しております。高齢化率も19.3%と比較的若い地区になりま
す。

平成29年度の活動報告としましては、主任ケアマネジャー、社会福祉士、看護師の3職
種がそれぞれにささえ隊養成講座や地域サロン、家族介護者サロン、ケアマネジャー事例検
討会などを企画・実施できたものと考えております。ともすればバラバラに動きがちです
が、プラットフォームである介護保険に立ち戻ることそれぞれの事業が高齢者支援として成
り立っているのではないかと思います。また、にしふでは総合相談支援事業の他に介護予防

事業を一体化して行っておりまして、体操教室だけでなく、府中警察署の方に来ていただいて交通安全や消費者被害対策、振込め詐欺予防啓発などを実施しております。

平成30年度は、「総合相談支援業務」に記載のとおり、住み慣れた場所で自分らしい生活を送り人生の最期が迎えられるように、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体化したまちづくりを目指し、多機関と連携していくと目標を大きく設定しました。

また、先ほど委員からもありましたが、認知症初期集中支援事業について地域への定着化を図っていききたいと考えております。あと、総合事業の盤石化を図るために、まだまだ市民の方に理解が得られていないボランティアについて必要性を説明し、ボランティア体制の構築に努めたいと考えております。以上です。

これまさ 地域包括支援センターこれまさをご報告させていただきます。先ほど安立園からもありましたが、地域包括支援センターの業務がここ数年とても忙しくなっているというのが実感です。これは、課題が多岐に渡っていることが理由として挙げられまして、在宅療養、認知症の方への対応、介護予防、防災など課せられる課題が増えてきていることを毎年実感しております。特に総合相談業務では、地域からの通報件数自体が増えていることは地域課題を共に取組んでいると言えますが、その相談内容としてごみ屋敷などに代表されるセルフネグレクトの方が増えている印象があります。地域との関係性を築こうとしない、あるいは引きこもりの方のように社会との接点を持つとしない方が増えており、地域の方が案じてもなかなか地域包括支援センター職員の訪問を拒むなど社会的な介入を許そうとしない状況にあります。この中には経済的困窮に苦しむ方もいるかと思えます。このとき、引きこもりの子供、特に息子さんが介護者のケースが多いのですが、子供が両親の年金を消費してしまい、経済的な理由で必要な介護サービスが受けられないという事例が増えてきておりまして、問題の多様性が伺えます。また傾向として相談者が高学歴な場合もあり、対応する職員にもスキルが求められます。今までの経験を基にして、それを積み上げて活かさないと適切な相談業務が難しくなっているのが現状だと感じます。

全体的に地域包括支援センター業務の領域範囲を超えてしまう事例が多くなっている中で、今後ますます、生活援護課や障害者福祉課など色々な機関との連携がとても必要になっていることを実感しています。これまさは職員8名で業務にあたっており、相談業務は専門職4名で対応しているのですが、課題が複雑多様化する中で職員自体が問題を抱え込まないよう、ストレスを感じすぎないようにチームケアの体制づくりという観点で今年度は進めていききたいと考えております。また、チームケアの中には地域の方にも入っていただくことが今後の地域包括ケアシステムにつながるかと思いますので、個人情報の問題があるかと思いますが、民生委員、町会なども含めて、地域の方と一緒に目線で進めていけたらと考えております。

最初にも申し上げましたが、課題は多いのですが、それぞれが分断されているわけではなくて、どれもがつながりを持って取り組むべきものと考えておりますので、幸せな地域づくりに向けて前向きに取り組んでいきたいと思っております。以上です。

みなみ町 地域包括支援センターみなみ町です。よろしくお願いいたします。地域包括支援センターみなみ町は南町のみを担当しております。これまで、南町にお住まいの方に知って頂けるように、地域活動に参加したりするなど、住民の方と顔を合わせる機会を多く持つように活動をしてまいりまして、住民の皆さまともある程度つながってきていると感じております。

この活動以外にも、ケアマネジャーサロンや高齢者地域支援連絡会の双方がつながれるように活動してまいりまして、昨年度以降はつながった人たちの次の活動を後押しするため多職種研修会を実施しました。この多職種研修会には介護機関、民生委員、自治会だけでなく医療機関にも個別で声かけをして、定期的の実施しております。

他の地域包括支援センター同様、相談のケースも生活困窮、精神疾患、障害など複雑化してきている傾向を感じています。地域包括支援センターだけでは解決できないことを強く感じておりますので、独自で行っている多職種研修会を活用しながらより多くの機関を巻き込んで、地域の課題解決に向けた取り組みが行えるようにしていきたいと思っております。

また、今までの目標でも掲げてきていることでもありますが、地域課題が漠然としており明確になっていないため、地域課題の抽出と、課題解決に向けた話し合いを続けていきたいと思っております。以上です。

事務局 ありがとうございます。府中市地域包括支援センターの報告については以上となります。よろしくお願いいたします。

会長 ただいま、各地域包括支援センターから「府中市地域包括支援センターの運営状況」について報告がございました。この報告については、皆様の努力によって地域の拠点として少しずつ根付いてきていることが分かりました。これと同時に頭が下がる思いです。その中でも私から言わせていただきますと、3点ほど課題があるのかなと思っております。

まず、1点目は複雑多様化した相談内容が増えてきている点です。このとき制度の狭間の事例への対応に大変苦慮されていることが分かりました。

2点目が情報の共有化です。これは、多機関との連携、多職種連携、とりわけ高齢化に伴う認知の問題もあることから医療機関との連携が重要となってくるものと考えております。

3点目が昨年度から始まった総合事業です。これは地域包括支援センターが核となるため、地域づくりの拠点として充実させる必要があるものと考えております。

こうして大きく3点の課題があるわけですが、その中でも是非市も含めてお願いしたいことで、この協議会内でも議論しなければならないことなのですが、地域包括支援センター職員の研修の機会を多く設けていただきたいということです。こうした研修に参加できるシステムを構築し、その成果が地域へフィードバックされるような仕組みづくりを進めていかなければならないと感じております。

それでは、委員の皆さんはご意見やご質問はございますか。

委員 ただ今、会長からのお話を聞いて、改めて地域包括支援センターの方が前向きに尽くしてくださっていることが分かりました。ここまで地域包括支援センターの方が色々な業務をされていることも知りませんでしたし、包括的・継続的ケアマネジメントという業務も初めて聞きました。資料によると各地域包括支援センターごとに、ケアマネサロンやさんもく喫茶などの名称で取組まれているとのことで、目的としては、高齢者の孤立化を防ぐことや情報を共有することとあります。さて、質問というのが地域包括支援センターにいるケアマネジャーさんは一人だと思いますが、他のケアマネジャーさんは地域包括支援センターまで来て研修を受けたりしているのですか。

副会長 地域包括支援センターの職務の一つに、その圏域内の事業所に努めているケアマネジャーに対して研修を実施したり、情報交換をすることにより、ケアマネジャーの質の向上を図っていく事があります。先ほどの報告からも分かる通り、各ケアマネジャーさんが苦勞されているので、ケアマネジャーさんが集まる機会を作って勉強会をしたり、気軽に悩み事を相談し合ったりする場を設けているのです。これは大変効果的なものとして取組まれているところです。

事務局 先程、委員から各地域包括支援センター内にケアマネジャーは一人だという発言がありましたが、配付している「平成30年度府中市地域包括支援センター活動計画」に各地域包括支援センターの職員数を挙げております。この中で、ケアマネジャーは介護支援専門員として記載しており、1人以上在籍しているところもあるため、必ずしも1人ではないことをご認識いただければと思います。

委員 分かりました。

会長 地域包括支援センターは制度としては、社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員が原則ですが、業務も多岐にわたるため多職種の職員が常駐しているということですね。他にございますか。

それでは無いようですので、「府中市地域包括支援センターの運営状況」については以上とさせていただきます、議事の「8 その他」について、事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、次第の「その他」といたしまして、府中市地域密着型サービス指定関係部会の開催状況につきまして、本日は、2月16日の開催分を報告させていただきます。

なお、会議録にございます当日資料につきましては、配付を省略させていただいておりますので、ご了承ください。

資料10の「府中市地域密着型サービス指定関係部会開催報告」をご覧ください。

当該部会における議題は、「指定地域密着型サービス事業所・指定地域密着型介護予防サービス事業所の新規指定について」でございます。

事業者は、「新光商事株式会社」でございます。対象事業所は「レコードブック府中西」。所在地は、府中市西府町3丁目1番地の5。日常生活圏域は、第6地区。サービスの種類は「地域密着型通所介護」。登録定員は、10人でございます。

新規指定にあたり、申請書類等の照合及び現地調査を行っておりまして、人員、設備、及び運営の基準について、要件が満たされていることを確認し、部会委員の皆様にご了承いただいております。

なお、新規指定日は平成30年3月1日でございます。

以上で、指定関係部会の報告を終わらせていただきます。

会長 事務局から説明のあった「府中市地域密着型サービス指定関係部会の開催報告」について、ご意見やご質問はございますか。

(委員からの意見、質問なし)

それでは無いようですので、その他の報告、連絡事項はありましたら事務局から説明をお願いします。

事務局 4点の連絡事項がございます。

まず1点目でございますが、6月1日号の広報ふちゅうに、この会議の委員委嘱に関する記事を掲載いたします。お名前のほか、学識経験者の方は所属等を、公募市民の方はお住まいの町名を掲載いたしますので、ご了承くださいますようお願いいたします。また、同日には府中市ホームページにおいても同様の記事を掲載したいと考えております。

2点目は、次回以降の会議の開催日時の調整でございます。先程の議題でも説明いたしましたとおり、今後は2か月に1回程度の開催となります。皆様のご予定も多々あるかと存じ

ますが、次回会議につきましては、7月19日(木)午前10時を予定しております。第3回目以降に日程については、改めて調整させていただければと存じますので、ご了承ください。

3点目は、開催通知等の送付方法についてでございます。昨年度は、年間の開催日程が概ね決まっておりましたので、当協議会の開催通知は、基本的に資料送付と合わせて郵送で送付させていただいておりました。今年度は、会議室調整等の都合上、3回目以降の日程が未定となっております。

つきましては、決まり次第、皆様に早く開催日程をお知らせするため、開催通知を電子メールでお送りさせていただきたいと考えておりますので、本日、ご提出いただく書類のメールアドレス欄へのご記入をお願いいたします。

なお、電子メールでのお知らせをご希望されない方につきましては、これまでどおり郵送で送付させていただきます。

また、会議録の確認や送付のほか、開催日程の調整の際も電子メールで対応させていただく予定でございますので、ご理解とご協力のほどお願いいたします。

最後に、4点目は委員の皆様のご個人番号の確認でございます。開催通知でご案内させていただきましたとおり、マイナンバー制度に則った「番号の確認」及び「身元の確認」が必要とされております。こちらも会議終了後に職員が確認をさせていただきますので、お手数をおかけいたしまして誠に申し訳ございませんが、ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

会長 事務局から説明のあった「4点の連絡事項」について、ご意見やご質問はございますか。

それでは無いようですので、これで本日の第1回府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会を終了いたします。

長時間にわたり、お疲れ様でございました。

なお、先程事務局から説明がありましたとおり、この後に、マイナンバーの確認を行うとのことですので、よろしくお願い申し上げます。

以上